

山梨に、吃音のことを語り合える場所を創りたい。

私たち言友会（げんゆうかい）は、吃音（きつおん、どもること）があっても自分らしく、豊かに生きる方法を探すための活動を全国各地で展開しています。

今回は、山梨県に新たな活動拠点を築くために、この「やまなし吃音のつどい」を企画しました。

日時

11月10日（土）

13:30~16:30（13:00開場）

会場

山梨県地場産業センター

かいてらす 大会議室

〒400-0807 山梨県甲府市東光寺3丁目13-25

参加費 無料

対象（定員60名）

吃音のある人、吃音のあるお子さんのご家族
吃音のある人の支援者（言語聴覚士、教員など）
吃音に関心のある方

プログラム

言友会の紹介、吃音に関する講演
吃音についての体験発表やグループトークなど。

第2回

吃音のつどい やまなし



主催 NPO法人 全国言友会連絡協議会

後援 山梨県教育委員会、甲府市教育委員会、山梨日日新聞社
山梨県言語聴覚士会、日本吃音・流暢性障害学会（申請中を含む）

*この事業の実施にあたり、公益財団法人キリン財団の
「キリン・福祉のちから開拓事業」から助成を受けています。

第2回 やまなし吃音のつどい

吃音とは

吃音は、「スムーズに話せないこと」で、かつては「どもり」とも呼ばれていました。具体的には、①繰り返し（例：おおおはよう）、②引き伸ばし（例：おーはよう）、③ブロック（例：…おはよう）の3つが「**中核症状**」とされています。しかし、吃音によって引き起こされる問題としては、「スムーズに話せないこと」そのものだけではなく、主にブロックが生じている時に顔面が震えたり、手足を動かしたりすることで異様な印象を与えてしまう「**随伴運動**」や、ブロックが解除されるまで時間を稼ぐために「えーと」などの空語句を多用したり、言いづらい言葉を言い換えたりする（例：「あ」で始まる言葉が苦手なので「兄」を「年上の男のきょうだい」と言う）ことで、意味の通じづらい発話内容になってしまう「**工夫**」、そして、吃ることを恐れるあまり、話すことに消極的になってしまい、場合によっては深刻な社会不適応に発展していく可能性もある「**回避**」などが指摘されています。そのため、表面的な中核症状の重さと、心理的な悩みの深さは必ずしも一致しません。

言友会とは

吃音のある人のセルフヘルプグループ（自助団体）として、1966年に東京で発足しました。吃音体験を分かち合う「例会」を中心として、会報の発行や吃音に対する理解を求めるためのイベント開催などの取り組みを通して、会員それぞれが「**吃音があっても豊かに生きる**」ための方法を見つけるべく、活動を続けています。

言友会には現在33の団体が加盟しており、山梨県の近隣地域では、埼玉県で埼玉言友会、神奈川県でよこはま言友会、長野県で信州言友会、静岡県で浜松言友会が活動しています。

プログラム

- 13:00-13:30 開場・受付
- 13:30-13:45 開会あいさつ・言友会の紹介
- 13:45-14:30 講演「知っておきたい！
吃音の傾向と対策 言語訓練編」
講師：横井秀明（言語聴覚士）
- 14:30-14:45 休憩
- 14:45-15:15 体験発表
- 15:15-16:15 グループトーク
- 16:15-16:30 まとめの会・閉会あいさつ

* 内容や時間配分は変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

会場アクセス



- ・ 甲府駅北口からタクシーで10分。
- ・ 酒折駅、身延線善光寺駅から徒歩15分。

申し込み方法

当日の飛び入り参加も可能ですが、会場定員の都合からご入場いただけない可能性がありますので、下記メールアドレスあるいは電話番号から事前にお申し込み下さい。その際に、①お名前、②お立場（吃音のある人、ご家族、言語聴覚士、ことばの教室の先生など）、③この企画どのように知ったか（例：チラシを〇〇で見た）をお伝えくださると幸いです。出来るだけメールでお申し込み下さい。【メール】info@zengenren.org 【電話】090-3863-4985（担当：武村）

* 平日昼間のお電話は対応が難しいことがあるため、出来るだけ避けて下さい。また、不在着信となった場合、留守番電話にメッセージがないと折り返し差し上げられないことがありますので、あらかじめご了承ください。